

研究課題評価表（事後評価）

課題コード	1	評価実施日	令和元年7月16日		
試験研究課題名	6次産業化の導入・定着条件の解明と経営モデルの策定				
試験研究機関名	農業・園芸総合研究所				
担当部署・担当者名	担当部（情報経営部） 担当リーダー名（菅野 千秋）				
研究期間	平成28年度～30年度				

項目別評価	評価項目	評価				係数平均	比重	採点
	評価	評価	評価	評価				
目標の達成度	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		3.5	30%	21.0
	3	3	4	4				
<p>S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】 6次化の導入・定着条件をある程度明確にして示すことができたのは評価できる。類型別の経営モデルが作成できなかったことは残念である。 【白鳥副部会長】 経営モデルの策定までは至らなかったが、導入・定着に向けたチェックリストの体系化を示すことができたことは評価する。 【麻生委員】 チェックリストを作成したことは評価できる。</p>								
研究成果	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		3.8	30%	22.8
	3	4	4	4				
<p>S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】 経営実態や事業経緯などを明らかにしたうえで、重要事項を提示したことは意義がある。 【白鳥副部会長】 チェックリスト項目が優れている。 【麻生委員】 作成したチェックリストが、新規参入する事業者にとって今後充分な情報を提供することになる。</p>								
地域への貢献度・波及効果	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		3.8	40%	30.4
	4	3	4	4				
<p>S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない 【菊地部会長】 有効回答率が低いのが気になるが、チェックリストの重要性を周知し、それによる6次化の定着・向上などが示されれば波及効果は期待できると考える。 【白鳥副部会長】 6次化に向けて参考になると思う。 【麻生委員】 チェックリストで明らかとなった問題点などへの対応策なども盛り込む必要がある。</p>								
							100%	74.2

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割り、項目の比重をかけたものを採点とします。（100点満点）

総合評価	評価				評価平均	総合評価
	評価	評価	評価	評価		
	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員	3.8	A
	3	4	4	4		

評価基準： **S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった**

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とします。

所
見

【菊地部会長】

- ・ 6次化を定着させている事業者から定着要因を抽出し、体系化することで、指針となるチェックリストを作成したことは評価できる。
- ・ 一方で、定着者であってもクリアできていない項目があることから、項目の要否やその項目の実践度合いなど、6次化の導入なのか、定着なのか、あるいは一定以上のレベルにおいての6次化を目標にしているのか、目的に合わせてチェックリストを細分化する必要があると考える。
- ・ また、チェックリストにおいてクリアできなかった項目に対し、事業者がどのように改善していけばよいのかなど、今後は方法なども示していただきたい。

【白鳥副部会長】

- ・ 6次産業化の推進を図る上で、「総合化事業計画」認定事業者等のアンケートの有効回答率が低すぎると感じる。
- ・ 推進に必要なPDCAサイクルを実施する上で重要な部分だと思うので、今後は認定基準の一つに「調査研究に協力をする」等の項目を入れたらいいのではと思います。
- ・ 導入・定着へ向けたチェックリストの内容が充実している。

【麻生委員】

- ・ チェックリストを作成したことは非常に評価されるが、アンケートに回答した参加事業者数が少ないと感じた。
- ・ アンケートで明らかになった問題点への対応策などの助言集も作成し、更なる6次産業化の促進を図るべきである。

【中村委員】

- ・ 1次産業の発展には6次産業化の取り組み拡大が重要であり、本研究で体系化したチェックリストにより、今後、6次産業化に取り組む事業者が増加することを期待する。

研究課題評価表（事後評価）

課題コード	2	評価実施日	令和元年7月16日		
試験研究課題名	四季成り性イチゴ生産の夏期高温対策技術の確立				
試験研究機関名	農業・園芸総合研究所				
担当部署・担当者名	担当部（野菜部（旧：園芸栽培部）） 担当リーダー名（鹿野 弘）				
研究期間	平成28年度～30年度				

	評価項目	評 価				係 数 平 均	比 重	採 点
		菊 地 部 会 長	白 鳥 副 部 会 長	麻 生 委 員	中 村 委 員			
項 目 別 評 価	目標の達成度	3	4	4	4	3.8	30%	22.8
		S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】いくつかの高温対策技術は示されているが、それが四季成りイチゴの収量にどのように反映するかについては不明瞭である。 【白鳥副部会長】高温対策・増収技術とも一定程度の目標は達成できた。 【麻生委員】複数の技術を検証した点は評価される。						
	研究成果	3	4	4	4	3.8	30%	22.8
S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】直ちに実用可能な技術が多いことは評価できる。 【白鳥副部会長】簡易隔離栽培と床面反射資材を一つの技術として3つの技術を組み合わせることにより、高温期の栽培が出来る実証が出来た。 【麻生委員】床面反射資材による暑熱対策で、6月と7月の生産量増加を実証したことは評価できる。								
地 域 へ の 貢 献 度 ・ 波 及 効 果	地域への貢献度・波及効果	4	4	4	4	4.0	40%	32.0
		S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない 【菊地部会長】今後、四季成り性イチゴを栽培している現地、および導入を検討している地域において実証試験を行い、その有用性が認められれば、地域への貢献度は高いと考える。 【白鳥副部会長】比較的安価な設備投資で栽培が出来ることは普及する可能性が大きい。 【麻生委員】実証試験を宮城県全体で行って、波及して頂きたい。						
							100%	77.6

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割り、項目の比重をかけたものを採点とします。（100点満点）

総合評価	評 価				評価平均	総合評価
	菊 地 部 会 長	白 鳥 副 部 会 長	麻 生 委 員	中 村 委 員		
	3	4	4	4	3.8	A

評価基準： **S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった**

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とします。

【菊地部会長】

- ・夏秋季におけるイチゴの国内市場は約100億円とも言われていることから、宮城県も積極的にシェア獲得に向けて検討を進めるべきと考える。
- ・その際一番の課題となるがやはり高温対策であり、今回いくつかの技術が示されたことから、今後は実証試験を進めて実際の収量や収穫期間などについても検討を行い、実質的なデータを提示してもらいたい。

【白鳥副部会長】

- ・周年需要があるイチゴにとって、夏秋生産が出来るようになることは、イチゴ生産者にとってメリットがある。
- ・新品種を含めた技術の普及に努められたい。

【麻生委員】

- ・普及可能な床面反射資材で生産量増加を実証したことは非常に評価できる。
- ・課題としては、周年栽培の実証と宮城県全体への波及を目指した実証試験が求められる。

【中村委員】

- ・県産のイチゴの周年供給体制強化に大きく貢献する研究だと考える。今後、夏期の高温がさらに進むと予想されているので、引き続き気温低減技術の改善、開発を望む。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

課題コード	3	評価実施日	令和元年7月16日
試験研究課題名	夏秋期における小ギクの露地電照栽培体系の確立		
試験研究機関名	農業・園芸総合研究所		
担当部署・担当者名	担当部（花き・果樹部（旧：園芸栽培部）） 担当リーダー名（津田花愛）		
研究期間	平成28年度～30年度		

項目別評価	評価項目	評価				係数平均	比重	採点
	目標の達成度	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員	3.3	30%	19.8
3		3	4	3				
<p>S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い</p> <p>【菊地部会長】有望な品種を選抜できたことは評価できるが、年次や地域によって到花日数が異なることから、さらなる試験研究の必要性を感じた。</p> <p>【白鳥副部会長】電照は需要期の出荷体制に効果が見られたが、地域により更に精査が必要な点は今後の研究になる。LED光源は課題が残った。</p> <p>【麻生委員】8月、9月の需要期に適した品種を選定したことは評価できる。</p>								
研究成果	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員	3.3	30%	19.8	
	3	3	4	3				
<p>S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い</p> <p>【白鳥副部会長】有望品種が選択できたことは成果があったが、9月出荷の岩出山の電照トラブルは早急に対応できなかったのか。LED電照は「費用対効果が問題」という研究成果が得られたと現時点では考える。</p> <p>【麻生委員】消灯日の設定によって、需要期に出荷を可能にした点は評価できる。</p>								
地域への貢献度・波及効果	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員	3.8	40%	30.4	
	4	3	4	4				
<p>S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない</p> <p>【菊地部会長】小ギクは宮城県の重点品目であることから、同一品種による需要期の連続出荷体系が確立されれば、地域への貢献度は高いと考える。</p> <p>【白鳥副部会長】研究実施地域では推進できるが、未実施地域においては推進出来ないのではないかと。白熱電球であれば比較的安価な設備投資なので波及効果はあると考える。</p> <p>【麻生委員】現地での実証試験を行い、成果を得たことで波及できると期待される。</p>								
						100%	70.0	

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割り、項目の比重をかけたものを採点とします。（100点満点）

総合評価	評価				評価平均	総合評価
	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員	3.3	B
3	3	4	3			

評価基準：S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった
C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とします。

所
見

【菊地部会長】

- ・年次や地域によって到花日数が異なる要因について明らかにする必要がある。
- ・また、消灯日の花芽分化程度や、花芽分化後の処理の効果についても検討に加えることが、より精密な開花制御技術の開発に重要と考える。

【白鳥副部会長】

- ・電照栽培における8月出しの成果は3地区とも示せたことは成果があった。9月出しについても成果が示せたら、なお良かった。
- ・LED電照は今後の課題である。

【麻生委員】

- ・菊の8月、9月の需要期に宮城県での栽培に適した品種を選定できたことは評価される。
- ・宮城県での実証試験を行ったことは評価されるが、消灯日に関連して光源の特定を急いで行っていただきたい。

【中村委員】

- ・電照によって8-9月の連続出荷が可能な3品種を見いだしたことは評価するが、あと数品種あると生産者の選択の幅が広がり良かったかと思う。
- ・また、到花日数のバラツキについて、何かしらの環境要因と関連があると思われるので、そこを明らかにできればさらなる栽培の技術開発にもつながると思う。LEDランプでの課題と合わせて、今後の技術開発に期待する。

研究課題評価表（事後評価）

課題コード	4	評価実施日	令和元年7月16日
試験研究課題名	農生態系内の生物多様性向上による総合的病害虫管理技術の開発		
試験研究機関名	農業・園芸総合研究所		
担当部署・担当者名	担当部（園芸環境部（旧：園芸環境部，情報経営部，バイオテクノロジー開発部） 担当リーダー名（関根崇行）		
研究期間	平成26年度～30年度		

項目別評価	評価項目	評価				係数平均	比重	採点
	目標の達成度	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員		4.0	30%
4		4	4	4				
<p>S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】天敵や微生物など様々な分野で一定の成果が得られている。 【白鳥副部会長】3件の目標の全てにおいて実効性のある成果が出ている。 【麻生委員】目標の達成度は非常に高いと判断される。</p>								
研究成果	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員		4.0	30%	24.0
	4	4	4	4				
<p>S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】普及技術や普及成果として提案されていることから，成果の達成度は高いと考える。 【白鳥副部会長】環境に配慮した病害虫防除技術として4件の普及技術の研究成果が出たことから目標達成度は高い。 【麻生委員】多方面から病害虫対策に取り組んだ事は評価される。</p>								
地域への貢献度・波及効果	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員		4.3	40%	34.4
	4	4	4	5				
<p>S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない 【菊地部会長】「持続可能な農業」を推進する政策が積極的に立てられていることから，今後の地域に対する貢献度は高いと考える。 【麻生委員】土着天敵を用いた栽培で，収益向上が期待され，波及効果は高いと考える。</p>								
							100%	82.4

*採点の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割り，項目の比重をかけたものを採点とします。（100点満点）

総合評価	評価				評価平均	総合評価
	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員		
	4	4	4	5		

評価基準：**S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった**
C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値を評価平均とし，その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とします。

【菊地部会長】

- ・基礎的研究としての意義も高いと考えるので、成果情報だけでなく、論文化にも取り組んでいただきたい。

【白鳥副部会長】

- ・環境問題は喫緊の課題であるが、生産者にとって実効性があるかについては今後の普及活動に係る部分大きい。
- ・継続した技術支援や効率的な作業体系が図られ、収益に結びついていくことが望まれる。

【麻生委員】

- ・リビングマルチによる害虫抑制では、栽培方法とコストに課題が残った。

【中村委員】

- ・総合的病害虫管理技術（IPM）において、本研究では有用天敵を利用するための植生技術、有用微生物管理技術、これらを併用した防除体系の確立や害虫・天敵類の行動管理技術の開発とIPM体系の構築のほか、多くの成果を上げており高く評価する。
- ・今後、これらの技術が定着されるよう期待する。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

課題コード	5	評価実施日	令和元年7月16日		
試験研究課題名	宮城県における先進的水稲省力・低コスト栽培技術の確立				
試験研究機関名	古川農業試験場				
担当部署・担当者名	担当部（作物栽培部（旧：水田利用部）） 担当リーダー名（菅野博英）				
研究期間	平成28年度～30年度				

項目別評価	評価項目	評価					係数平均	比重	採点
	目標の達成度	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員		4.0	30%	24.0
4		4	4	4					
<p>S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】 利益率も加味した省力・低コスト技術が提案されており、達成度は高いと考える。 【白鳥副部会長】 省力・低コスト栽培技術として確立されている。 【麻生委員】 コーティング資材として、べんがらモリブデンの有効性を明らかにしたのは評価できる。</p>									
研究成果	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員		4.0	30%	24.0	
	4	3	4	5					
<p>S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】 日本作物学会技術賞を受賞するなど、技術として良い成果を上げているのに加えて、県内における栽培面積が増加しているなど普及程度も高くなっていることから十分な成果を上げていると考える。 【白鳥副部会長】 無人ヘリやドローンによる直播に多少の問題はあるが、カルパーよりも倒伏性は低く抑えられそうだ。粗植栽培と密苗栽培は普及定着している。 【麻生委員】 湛水と落水での出芽率と倒伏度合との関係を明確にしたことは評価できる。</p>									
地域への貢献度・波及効果	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員		4.0	40%	32.0	
	4	3	4	5					
<p>S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない 【菊地部会長】 高齢化や担い手不足が進む中、省力・低コスト技術で成果を上げていることは地域への貢献度が高いと考える。 【白鳥副部会長】 既にかかなりの面積で普及している技術なので、今後も省力・低コスト栽培に向けて普及して行くと考えられる。 【麻生委員】 べんがらモリブデンコーティングの保存性の高さを明らかにし、普及性は高いと判断される。</p>									
							100%	80.0	

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割り、項目の比重をかけたものを採点とします。（100点満点）

総合評価	評価					評価平均	総合評価
	菊地部会長	白鳥副部会長	麻生委員	中村委員		4.3	A
4	4	4	5				

評価基準： **S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった**

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とします。

【菊地部会長】

- ・今回、基肥の施用方法により慣行と同等の収量と品質が維持できることが示されたことから、普及拡大が期待できる。栽培マニュアルの整備を進めていただき、宮城県発の先進技術の確立を目指していただきたい。

【白鳥副部会長】

- ・現在の稲作経営において、省力・低コスト栽培は極めて重要度の高い分野なので、次なる課題克服に向けていってもらいたい。

【麻生委員】

- ・材料費が安いべんがらモリブデンコーティングの保存性と有効性を明らかにしたことは、評価できる。本技術は、日本作物学会技術賞を受賞したことも評価される。
- ・本技術を普及するには、直播の有効性を実証する必要がある。

【中村委員】

- ・本研究は、「宮城型省力・低コスト栽培技術」の確立を目指したもので、基礎研究から栽培技術の確立・実証、さらに普及に向けての研修会を開催し、実際、鉄コーティングに代わってべんモリによる栽培面積が急増している。今後のさらなる普及を期待している。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

課題コード	6	評価実施日	令和元年7月16日
試験研究課題名	ダイズ病害虫の総合的管理技術の確立		
試験研究機関名	古川農業試験場		
担当部署・担当者名	担当部（作物環境部（旧：作物保護部）） 担当リーダー名（小野 亨）		
研究期間	平成26年度～30年度		

項目別評価	評価項目	評価				係数平均	比重	採点
	目標の達成度	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		4.0	30%
4		4	4	4				
S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】今まで解明されていなかった病害虫の発生生態を明らかにし、それを基に効率的な防除技術が提案されたことは、試験研究としても実用技術としても達成度が高いと考える。 【白鳥副部会長】新しい防除技術の提案ができた。 【麻生委員】畝立と排水の関係を明確にしたことは評価できる。								
研究成果	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		4.0	30%	24.0
	4	4	4	4				
	S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】様々な方面からの病害虫防除技術が提案されており、環境負荷軽減も達成できていることから、評価は高いと考える。 【白鳥副部会長】病害の発病要因の解明と効果的な防除方法が確立された。 【麻生委員】第1世代の害虫個体数から被害予測を行い、防除対策を実証した点は評価出来る。							
地域への貢献度・波及効果	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		4.0	40%	32.0
	4	4	4	4				
	S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない 【菊地部会長】宮城県は大豆の生産量が全国第2位の主産県であることから、地域への貢献度は高いと考える。 【白鳥副部会長】畝立て播種に付いては大豆栽培の基本となっていると思うが、更に効果的な薬剤と効果的な防除時期の解明が出来たことは波及効果が期待できる。 【麻生委員】普及には県試験機関が病害虫を特定する検査などを補助する必要がある。							
							100%	80.0

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割り、項目の比重をかけたものを採点とします。（100点満点）

総合評価	評価				評価平均	総合評価
	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		4.0
4	4	4	4			

評価基準： **S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった**

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とします。

【菊地部会長】

- ・ 様々な技術が提案されたが、今後はこれら技術を体系化し、防除マニュアルを作成するなどして、生産者への指導・普及についても検討いただきたい。

【白鳥副部会長】

- ・ 発生生態を考慮した病害虫防除体系の提案が出来たことは、研究成果が出たと考える。

【麻生委員】

- ・ ダイズ病害虫の発生要因と伝播性に注目し、畝立と排水の関係を明らかにしたことは評価できる。害虫の増殖サイクルに焦点を当て、防除対策を提案したことは評価される。
- ・ 提案された病害虫防除体系を農家が実践するには、県試験研究機関のサポートを充実していただきたい。

【中村委員】

- ・ 国産大豆のニーズが高い状況下で、全国2位の収穫量をほこる宮城県でのダイズ病害虫防除技術の確立は重要な課題である。
- ・ 本研究の成果の現場での普及、被害の軽減につながることを期待する。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

課題コード	7	評価実施日	令和元年7月16日		
試験研究課題名	除染後の牧草地における草地管理技術の確立				
試験研究機関名	畜産試験場				
担当部署・担当者名	担当部（草地飼料部） 担当リーダー名（菅原賢一）				
研究期間	平成27年度～30年度				

項目別評価	評価項目	評価				係数平均	比重	採点
	目標の達成度	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		3.8	30%
3		3	5	4				
S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】暫定許容値超過要因がカリ不足と低pHと特定されるなど、目標に対して一定の達成がみられる。 【麻生委員】放射能除染対策方法が確立されてない状況下で、実施されたことは評価できる。								
研究成果	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		4.0	30%	24.0
	3	4	5	4				
	S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い 【白鳥副部会長】今後の牧草地の維持管理に向けてセシウムの超過要因と対策を示すことができた。 【麻生委員】耕起方法，セシウム吸収素材，土壌成分を明確にされたことは評価できる。							
地域への貢献度・波及効果	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		3.8	40%	30.4
	4	3	4	4				
	S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない 【菊地部会長】放射性セシウムによる汚染が農作物に与える世間的被害は深刻であることから、低減化に対する一定の知見が得られたことは、非常に重要と考える。 【麻生委員】ゼオライトの有効性を明らかにし、土壌中ミネラルの重要性を示したことは評価できる。							
						100%	77.2	

*採点の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割り，項目の比重をかけたものを採点とします。（100点満点）

総合評価	評価				評価平均	総合評価
	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員	4.0	A
	3	4	5	4		

評価基準：**S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった**

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値を評価平均とし，その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とします。

所
見

【菊地部会長】

- ・今回の試験研究によって、カリの定期的施用が牧草への放射性セシウム移行防止に有効であることが明らかになり、一定の指針が得られたと考える。
- ・カリの過剰な施用が牧草のミネラルバランスを悪化させるなどの課題が残されているが、今後は牧草の品質をある程度維持しつつ、カリ過剰にならないような具体的施与方法を検討していただき、現地の指導にも力を入れていただきたい。

【白鳥副部会長】

- ・食の信頼回復と維持のための研究成果が示された。
- ・しかし、一ほ場ごとに土壌の性質の違いがあり、様々なパターンがあることから丁寧な調査や作業が求められるのではないかと。

【麻生委員】

- ・放射性セシウムの土壌からの除去方法が確立されてない状況下で、吸着素材ゼオライトの有効性を明らかにしたことは大いに評価できる。
- ・その中で、土壌中ミネラル濃度管理の重要性を示されたことは、今後の普及に非常に役立つと考えられる。

【中村委員】

- ・国産の粗飼料の確保は、乳牛、肉牛生産のみならず循環型農業を推進するためにも重要であり、本研究により、基本的な対応策を明らかにできた点を評価いたします。
- ・これらの知見が現場に活かされることを期待しています。

研究課題評価表（中間評価）

課題コード	8	評価実施日	令和元年7月16日		
試験研究課題名	暗渠を利用した土壌水分コントロールによる水田基盤活用技術の確立				
試験研究機関名	古川農業試験場				
担当部署・担当者名	担当部（水田営農部（旧：土壌肥料部）） 担当リーダー名（大野菜穂子）				
研究期間	平成28年度～32年度				

項目別評価	評価項目	評 価				係 数 平 均	比 重	採 点
	計 画 の 進 捗 度	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		4.0	30%
4		4	4	4				
S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】 塩害抑制技術について、今回行った地域では難しいとの結果が得られて方向転換していることから、進捗度については計画通りであると考えます。 【白鳥副部会長】 地元の要望により転換畑大豆の塩害抑制のための技術を計画通り進めた。 【麻生委員】 暗渠の実証試験を行ったことは評価される。								
情勢変化 等への適 合性	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		3.8	30%	22.8
	3	4	4	4				
	S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い 【菊地部会長】 暗渠によって塩害が抑制できるかどうかは、どのような地域であるか、地盤などの特性も大きく影響すると推察する。そのような地域特性を加味して、暗渠が有効な土地を推測し、試験を行いデータを収集することも検討してはどうだろうか。 【白鳥副部会長】 塩害対策は極めて斬新な計画だったが、期待した効果が無く大豆栽培の計画変更を行った。 【麻生委員】 水位管理と煙害および地盤沈下の課題に対する対応が求められる。							
研究成 果及び地 域への貢 献度・波 及効果の 見 通し	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		3.5	40%	28.0
	4	3	3	4				
	S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない 【菊地部会長】 暗渠を利用した土壌水分コントロール技術は、様々な用途での技術開発が望まれていることから、今後の地域への貢献度は高いと考える。 【麻生委員】 暗渠設置農地を用いた今後の研究推進方法の立案が必要である。							
							100%	74.8

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割り、項目の比重をかけたものを採点とします。（100点満点）

総合評価	評 価				評価平均	総合評価
	菊地 部会長	白鳥 副部会長	麻生 委員	中村 委員		4.0
4	4	4	4			

評価基準： **S：計画以上に進捗している A：計画どおりである B：やや遅れはあるが、妥当である C：試験研究計画、手法等の部分的見直しが必要である D：本課題を中止すべきである**

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とします。

【菊地部会長】

- ・有機質土壌の地盤沈下抑制効果については一定の知見が得られていることから、今後の試験研究に期待する。

【白鳥委員】

- ・現時点で塩害対策は有効な対策が見当たらないことになった。
- ・地域特性から現状の地域に適した作物を選択することの決断が出来た研究であったと思う。

【麻生委員】

- ・暗渠設置農地での実証試験により、水位管理の難しさと地下水による塩害の再発が明らかとなった点は評価出来る。
- ・問題点解決に向けた対応策の策定が必要である。

【中村委員】

- ・暗渠利用の土壌水分コントロールで、津波被災水田での転換畑の塩害を完全には抑制できなかったのは残念であった。
- ・地下水位制御によって有機物の分解を抑制し、圃場面の不等沈下を抑制する効果があるというのは興味深いことである。
- ・地下水位制御の新たな活用方法だと思うので、さらに研究を進めていただければと思う。

所

見